医療特集

医師と患者が共に医療を決めていく
インフォームド・コンセント

治療法やリスク、費用などの様々な説明を事前に受ける「インフォームド・コンセント」。しかし、この言葉は知っていても、実際に何を行うことなのかや、患者としてどのような対応をすれば良いのかは、意外に知らないものです。改めて、インフォームド・コンセントの意義や目的、具体的な活用の仕方を見直します。

監修　木村 利人
（きむら りひと）
恵泉女学園大学学長。2006年4月より学長に就任。「バイオエシックス（生命倫理）」のパイオニアの一人として、タイ、ベトナム、スイス、アメリカ、日本の大学で教鞭をとってきた。国内では厚生労働省・厚生科学審議会委員、医師国家試験委員などを歴任。著書に「いのちのバイオエシックス」などがある。日本生命倫理学会会長、早稲田大学名誉教授。

文／後藤 ようこ　イラスト／しおた まこ　写真／アマナイメージズ

知っているようで知らない。インフォームド・コンセント

「十分な説明に基づいた同意」とは

インフォームド・コンセントは、よく「説明と同意」と呼ばれますが、実はそれよりも深い意味があります。それは、「患者の知る権利」に基づいて得た医療情報に、患者が納得したうえで自発的に同意することを意味するということです。そのため、医師側はわかりやすい言葉で患者に情報を伝え、納得できているかを確認しなければなりません。また、患者側は十分理解できるまで、医師に確認する必要があります。つまり、医師と患者の間にこのような良好な相互関係ができることこそが、本来の姿だと言えます。

しかし、実際に自分が患者になったとき、どのように対応すれば良いのか分からない方も多いのではないでしょうか？　医療が進み、さまざまな治療法が確立されている現代だからこそ、活用の仕方を確認しましょう。

自分の命は自分で決め、納得した医療を受ける

インフォームド・コンセントの原点は、医師中心の医療から患者中心の医療に移ることにあります。つまり、根底には「自分の命は自分で決める」という生命倫理の考え方が宿っています。そのため、医師側も患者の権利をどのように守っているかの基本方針を発信し、患者側はそれを確認して、自分で医療機関を選ぶことが大切です。

1981年にポルトガルのリスボンで開催された世界医師会総会で採択された「リスボン宣言」で、医療者側（医師・医療従事者・医療組織）が推進すべき6カ条の患者の権利が挙げられていることからも、患者中心の医療という考え方の重要性がわかります。

■インフォームド・コンセントの流れ

- **医師側**　情報を伝える（病状・治療法・選択肢・リスク・予後など）
- ↓
- **患者側**　理解し意思を決める（説明を理解し、同意・不同意を決定）
- ↓
- **患者側**　意思を伝える（医師に自分の決定した意思を伝える）
- ↓
- **医師側**　患者の意思を尊重する（患者の理解を確認し、意思を尊重）

「患者の権利」について 世界医師会・リスボン宣言（1981年）

- 医師を自由に選択する権利
- 外部から干渉されない医師により治療・看護を受ける権利
- 情報提供後に処置を受ける権利、又はそれを拒否する権利
- 秘密を保持される権利
- 威厳をもって死ぬ権利
- 宗教的支援を受ける権利、又これを拒否する権利

10-13-1.2月.indd　10-11　10.11.15　2:35:39 PM

インフォームド・コンセントの受け方

1. 診断名や病気を聞く

自分の病気の正確な診断名を確認します。後から、自分で調べたりするときのためにも、正しい診断名と病気の成り立ちについての説明を受けましょう。特別な病気だけではなく、風邪などの日常的な疾患でもきちんとした診断名や成り立ちを聞くようにしましょう。

Point

- 理解できるまで説明を求める
- 一人では理解できない場合は、家族などと一緒に受診する
- 説明はプライバシーが守られた場所で受ける
- 説明後、疑問が出た場合や忘れてしまった場合は、再度説明を受ける

2. 疾患の説明を受ける

病状がどこまで進んでいるのか、今後どのような検査や治療があるのかを確認します。診断名が同じでも、病状によっては、患者ごとに検査や治療の方法が異なることがあります。自分がどんな病状であるのかを、しっかり聞くことが大切です。

Point

- 書面で説明を受ける
- 必要があればメモをとる
- 専門的な説明を聞き取る自信がない場合は、第三者機関（医療コーディネーター、メディカルソーシャルワーカーなど）を利用するのも良い

3. 治療法と利点と欠点を聞く

今後、どんな治療を受ける必要があり、そのリスクや予想される副作用、成功率を確認します。治療の選択肢については、その治療の内容だけでなく、医師が考える治療の優先順位も確認することも欠かせません。

Point

- 治療法はいくつかの選択肢に分け、順番をつけて聞く
- それぞれの治療法について、よく理解できるまで繰り返し確認する
- 主治医がすすめる治療法を確認しておく

4. 治療をしなかった場合の経過を聞く

病状に沿って、予後（回復時期やその見込みなど）を確認しておきます。将来、どのような変化をたどる可能性があるのか、また、治療を受けなかった場合にどのような経過をたどるのかを確認します。「治療しない」ということを自分の意思で決定する場合もあります。

Point

- 予測される予後について確認する
- 別の治療法を選んだ場合の予後も確認する
- 場合によっては、無治療（経過観察）が最善の方針である場合もある

5. 病院での治療実績を聞く

その医療機関における、自分がかかった疾患の治療経験や治療実績、専門医の有無を確認します。その疾患に関する他の専門施設についても確認するのも良いでしょう。主治医以外の医師に意見を求めるセカンドオピニオン（本誌vol.08参照）を選択することも考えておきましょう。

Point

- 医療機関における、同じ疾患の治療成績データや専門医の有無を聞く
- 他の医療機関で、セカンドオピニオンを受ける場合の他の医療機関の情報などを聞く

6. セカンドオピニオンなどを検討する

これまで説明を受けた情報を元に、自分が決定した意思を医師に伝えます。その際、どの治療法を選択するのかや、セカンドオピニオンを行うのかなども決定します。また、まだ理解できない部分がある場合は、さらに医師に確認し、そのうえで意思を伝えましょう。

Point

- 不明な点がある場合は、納得できるまで説明を求める
- セカンドオピニオンを受けたい場合は、診療録のコピーなどを依頼する
- 一度同意した後でも、途中で自分の意思が変わった場合は撤回し、別の選択肢を選ぶことができる

医師と患者が継続的に関わり合う

インフォームド・コンセントは、「医師に病状を説明されたときにしっかり説明を受け、同意書にサインをすれば良い」というものではありません。その本質は、医師と患者がお互いに接触を重ねながら、互いの医療に関する考え方や価値観を分かり合うために必要な、継続的な関わりなのです。

そのため、病状の説明という形式的、瞬間的なもので終わるのではなく、必要と感じた時々に、何度も繰り返し行われる継続的なプロセスであることを理解する必要があります。

また、インフォームド・コンセントは、がんや難病など、特定の疾患を患ったときだけに限られたプロセスではありません。風邪や慢性的な病気の投薬などで医療機関にかかった際など、日常的な病気のときにも必要な関わり方なのです。

実践リポート

稲城市立病院 患者との会話を記録し信頼関係を強化

院長　一條 真琴氏

当院では、医師と患者様の間での信頼関係を強くするため、前もって了承を得たうえで、患者様への説明を録音して記録するシステムを取り入れています。これは、医療訴訟に備えるためのものではなく、患者様が医療に対する不信感をもたないために、医師側がきちんとインフォームド・コンセントを提供する必要があるからです。

音声を記録すれば、相手に分かりやすく説明しようという意識が医師側に定着し、その積み重ねが医療不信を払拭するのではないかと考えて、導入しました。記録したデータはカルテと同様にきちんと保管しています。インフォームド・コンセントを記録に残すことは、結果的には医師と患者様のお互いのためになると考え、医療と日々向き合っています。

10-13-1.2月.indd　12-13　10.11.15　2:35:48 PM